

1. 財団の運営

国において公益法人制度の抜本的な改革が進む中、公益性を有する当財団においても、必要なガバナンス・規律の確保等を通じ、適正かつ自律的な運営を図った。

(1) 定例理事会の開催

収支予算・決算及び評議員の人事等、当財団の運営に係る事項を審議するため、下記のとおり定例理事会を開催した。

- 定例理事会(2回)…平成19年6月12日、平成20年3月28日
-

(2) 評議員会の開催

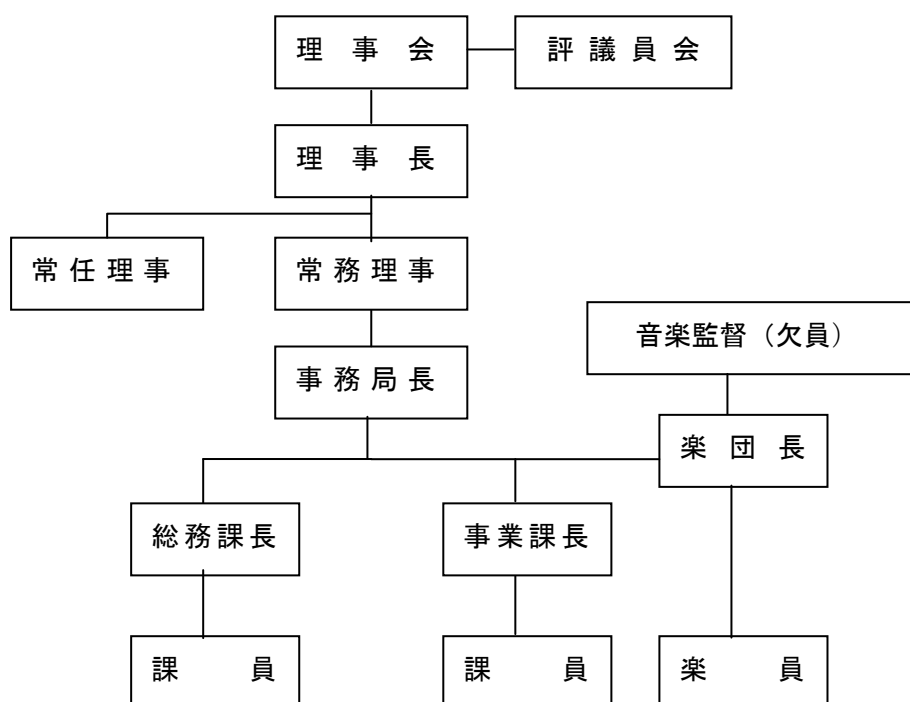
理事・監事の人事等、当財団の運営に係る事項を審議するため、下記のとおり評議員会を開催した。

- 評議員会(2回)…平成19年6月12日、平成20年3月28日

(3) 組織

平成19年度は、下記組織体制により事業を実施した。

役員：12名（理事11名、監事2名（6月12日までは1名））
評議員：11名（12月19日までは12名）
事務局職員：14名（プロパー6名、府派遣3名、民間派遣3名、嘱託員等2名）
楽員：52名



2. 財団事業

大阪府における芸術、文化の振興を図り、ゆとりとうるおいに満ち、個性的で創造性に富んだ国際文化都市大阪づくりに寄与するため、管弦楽演奏等の音楽活動を中心とした下記文化事業に積極的に取り組んだ。

- (1) 管弦楽の演奏等を通じた音楽文化の振興…大阪センチュリー交響楽団運営事業
- (2) 舞台芸術文化の普及啓発…府民芸能・芸術鑑賞事業（半額鑑賞事業）
- (3) 文化施設の管理運営受託…服部緑地野外音楽堂の管理運営受託事業

3. 財団資産の管理

財団の基本財産及び減価償却基金等の財産について、安全確実な方法により運用し、財団の財政基盤の充実に努めた。

4. 具体的な事業結果

(1) 大阪センチュリー交響楽団の運営

府民の多様化、高度化する音楽ニーズに応え、質の高い音楽鑑賞機会を提供するとともに、国際文化都市大阪の文化的シンボルの一つとしての役割を果たすため、以下の基本理念に基づき大阪センチュリー交響楽団を運営した。

《基本理念》

- 府民に親しまれ、府民の誇りとなるオーケストラを目指す。
- 芸術性の高い、我が国有数のオーケストラを目指す。
- 青少年育成などを通じ、音楽に親しむ土壌を醸成し裾野を広げる。

《基本方向》

府民のオーケストラとして社会貢献事業（パブリックサービス）に積極的に取り組む。特に音楽を通じた青少年育成など教育プログラムの実施により、一人でも多くの府民に生のオーケストラ演奏を聴く機会を提供することに重点を置く。

また、定期演奏会等自主公演の内容の充実を図ることにより集客に努めるとともに、依頼公演をはじめとする事業収入の増加を図り、自立的経営を促進する。そのため、あらゆる機会をとらえて楽団のPRに努めるとともに、顧客に対するきめ細かなアプローチを積極的に行う。

楽団組織

- 名 誉 指 揮 者 : ウリエル・セガル
- 首 席 指 揮 者 : 小 泉 和 裕
- ソロ・コンサートマスター: 川 崎 洋 介
- 首席客演コンサートマスター: 高 木 和 弘 (9月30日退団)
- 客員コンサートマスター: 太 田 雅 音
- 編 成 : 2 管 1 0 型 (楽員定数 56名)

① 府民のオーケストラとしての社会貢献事業の取組み

公立オーケストラのサービスの一環として、広く一般府民を対象にした演奏会や、普段オーケストラに触れる機会の少ない府民を対象とした演奏会を開催した。

(ア) 家族で楽しむ野外演奏会

家族づれで気軽にオーケストラに触れる機会を提供するため、夏休み期間中の最終土曜日・日曜日(8月25日(土)、26日(日))、服部緑地野外音楽堂において、「星空ファミリーコンサート」を開催した。

クイズコーナーや指揮者コーナーなど参加型のコンサートとして、また、平成19年度創設した青少年によるアマチュア・オーケストラ「センチュリー・ユースオーケストラ」との共演などもあって、多数の入場者を得た。

観客総数 3,429名

(イ) 青少年を対象とするオーケストラ体感コンサート

児童・生徒たちが迫力あるオーケストラの生演奏を体験するだけでなく、楽団員とともに楽器に触れ、音を出し、オーケストラの中で演奏を聴き、オーケストラを指揮することができる「Touch the Orchestra」を、センチュリー・オーケストラハウスでの12回に加え、新たに、大阪の南部地域の高石アプラホールで4回、合計16回の公演を実施した。

- ・ 6月14日、15日(計4回)
- ・ 11月22日、23日、24日(計6回)
- ・ 2月5日、6日、7日(計6回)

(ウ) 養護学校の児童・生徒を対象とした音楽鑑賞機会の提供

平成20年1月16日、大阪府立養護諸学校8校(和泉養護、岸和田養護、堺養護、泉北養護、富田林養護、守口養護、八尾養護、盲学校)から988名の児童・生徒・教職員を国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)に招いた。

(エ) 府立病院コンサート

府立の病院に入院・通院している患者やその家族を対象に、音楽演奏によるやすらぎと感動を提供するため、5つの府立病院のロビー等において、アンサンブル・コンサートを開催した。

- ・ 母子保健総合医療センター …平成19年6月1日(弦楽四重奏)
- ・ 精神医療センター …平成19年6月1日(金管アンサンブル)
- ・ 呼吸器・アレルギー医療センター…平成19年6月4日(弦楽三重奏)
- ・ 成人病センター …平成19年6月5日(木管五重奏)
- ・ 急性期・総合医療センター …平成19年6月5日(弦楽四重奏)

② クラシック音楽の質の向上に向けた取組み

自主公演のプログラムの充実を図り、プロのオーケストラとしての演奏技術等の向上に積極的に取り組んだ。

(ア) 定期演奏会（「ザ・シンフォニーホール」にて、年10回実施）

首席指揮者 小泉和裕が、ブルックナーの交響曲（第120回）や没後110年に当たるブラームスの交響曲4曲（第123回、第125回、第126回、第128回）、日本初演マルティヌー作曲のカンカータ「チェコ狂詩曲」（第123回）を指揮するとともに、邦人指揮者として広上淳一（第121回）、山下一史（第124回）、沼尻竜典（第127回）、海外からはベルンハルト・クレー（第122回）、ジェームス・ジャッド（第129回）と多彩なゲストを迎え、楽団の演奏技術向上に大きく資するものがあった。

また、ピアニスト セルジオ・テイエンポ（第124回）、オリ・ムストネン（第125回）、チェリスト趙静（第127回）、オーボエスト古部賢一（第129回）との共演、イタリア・プログラム（第121回）、首席客演コンサートマスター高木和弘と首席ヴィオラ奏者竹内晴夫がソリストを務めた公演（第122回）、ソロ・コンサートマスター川崎洋介がセレブリアーニ（ピアノ）、ケッセル（チェロ）とソリストを務めた公演（第128回）など、多彩なプログラムを実施した。

(イ) 特別演奏会

《京都特別演奏会》

関西エリアでの知名度アップを図り、新たなセンチュリーファンを開拓するため、平成19年10月19日、第125回定期演奏会と同一内容で、京都コンサートホールにて実施した。

《東京特別演奏会》

第128回定期演奏会と同一内容で、平成20年2月24日に1,500名の観客を集め、サントリーホールで開催した。

《いたみ特別演奏会》

いたみホールとの共同制作により、平成19年9月2日と11月18日の2日間、同ホールにおいて、ヴィヴァルディとバッハの名曲を演奏した。

《音楽なぞとき劇場第4弾》

響敏也作・構成・脚本、円光寺雅彦指揮、俳優肝付兼太とオーケストラによる企画コンサート「指揮者とは何か」を、平成20年2月13日に、いずみホールで開催した。

《いずみ特別演奏会》

川崎洋介プロデュースによる指揮者のいないコンサートを、平成20年3月23日に、いずみホールで開催し、オーケストラの持つ高度なアンサンブル力を披露した。

《オーケストラの日コンサート》

日本オーケストラ連盟が「オーケストラの日」と定めた3月31日に、NHK大阪ホールにおいて、クラシックファンの定着、裾野の拡大を図るため、チケット料金千円で、家族で楽しめるコンサートを開催した。

《ハウスコンサート》

平成20年2月10日、小泉和裕首席指揮者で、定期会員を対象とした「ハウスコンサート」をセンチュリーオーケストラハウスにて実施した。

③ レクチャー・ワークショップ型事業の取組み

(ア) 青少年のためのオーケストラ・ワークショップ

財団法人関西テレビ青少年育成事業団との共催で、若い人たちに、よりオーケストラを知っていただくため、また、演奏する喜びを味わっていただくため、青少年によるアマチュア・オーケストラ「センチュリー・ユースオーケストラ」を立ち上げ、楽員の指導のもと「星空ファミリーコンサート」出演やハウスコンサートの開催、野外活動などを実施した。

(イ) 大学生インターンシップ生の受入れ

楽団運営に係る人材を育成するため、大阪音楽大学（夏期）及び大阪芸術大学（春期）からインターンシップ生を受け入れた。

(ウ) 一般成人を対象とした「おもしろオーケストラ教室」

「指揮者についての（非）音楽的考察」をテーマとして、一般成人を対象に、レクチャー教室と、「音楽なぞとき劇場第4弾」、「いずみ特別演奏会」の鑑賞をセットにし多様なメニューをそろえた「おもしろオーケストラ教室」を実施し、クラシック音楽の普及・啓発を図った。

《第4期》平成20年2月2日・13日、3月8日・23日

④ 音楽事務所や公立ホール等からの依頼による公演

音楽事務所や音楽ホール、公立ホール、企業等からの出演依頼により、57回の公演を行った。

また、文化庁の委託公演（「本物の舞台芸術体験事業」）を13公演行った。

※ 公演実績（16年度～19年度）

単位：回数

区	分	16年度	17年度	18年度	19年度	増減(19-18)
①	自主公演	35	38	40	44	4
	フルオーケストラ	27	31	31	38	7
	アンサンブル	8	7	9	6	▲3
②	依頼公演	61	68	52	57	5
	フルオーケストラ	52	59	48	51	3
	アンサンブル	9	9	4	6	2
③	文化庁委託公演	0	0	0	13	13
総公演数(①+②+③)		96	106	92	114	22

⑤ 収入増加のための取組み

自主公演における演奏曲目などに工夫を凝らし定期会員の獲得やチケット収入の確保に努め、また、独自企画パッケージの制作や周年を迎える企業・学校・市町村への営業活動を強化して依頼公演の獲得に努めるとともに、文化庁の「本物の舞台芸術体験事業」の獲得に積極的に取り組んだ結果、楽団事業収入は、前年度に比べ約43%、8,402万円増の約2億7,786万円となった。

また、大阪センチュリー交響楽団の活動に賛同していただける個人、法人から460万円の協賛金収入を得た。

さらに、文化庁からは、「定期演奏会」、「Touch the Orchestra」、「京都特別演奏会」を対象に計3,950万円、日本芸術文化振興会から「東京特別演奏会」を対象に350万円の助成金を得るなど、収入の増加に努めた。

※ 交響楽団事業収入実績（16年度～19年度）及び協賛金収入実績（19年度）

単位：千円

区 分	16年度	17年度	18年度	19年度	増減(⑩-⑨)
① 依頼公演収入	148,380	142,174	145,195	217,259	72,064
② チケット販売収入	20,461	21,831	18,601	27,073	8,472
定期演奏会 有料入場者数(人)	(11,725)	(12,675)	(12,196)	(12,428)	
シンフォニー定期 総入場者数(人)	(10,728)	(14,316)	(13,997)	(14,234)	
" " 平均入場者数(人)	(1,341)	(1,431)	(1,399)	(1,423)	
" " 入場率(%)	(78.70)	(84.01)	(82.10)	(83.51)	
③ 個人定期会員収入	8,246	15,402	15,647	17,860	2,213
④ 団体定期会員収入	5,272	5,000	4,600	3,300	▲1,300
⑤ 放送料収入	2,508	5,148	5,450	7,030	1,580
⑥ その他収入(CD販売等)	2,067	2,865	4,340	5,338	998
合計(①～⑥)	186,934	192,420	193,833	277,860	84,027
⑦ 協賛金収入	—	—	4,640	4,600	▲40
合計(①～⑦)	186,934	192,420	198,473	282,460	83,987

(注) 定期演奏会回数

平成16年度 … 12回/年 (いずみホール4回・シンフォニーホール8回)

平成17年度～ … 10回/年 (シンフォニーホール10回)

※ 個人定期会員数（シンフォニーホール）

単位：人

区分	座席数	17年度			18年度			19年度			20年度	
		年間	前期	後期	年間	前期	後期	年間	前期	後期	年間	前期
A席	768	289	76	90	324	50	53	313	48	48	317	44
B席	420	123	34	50	132	36	35	154	25	28	145	25
C席	306	79	—	—	91	—	—	90	—	—	91	—
D席	210	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
小計	1,704	491	110	140	547	86	88	557	73	76	553	69
年間会員＋前期会員		601			633			630			622	
年間会員＋後期会員		631			635			633				

- 年間会員 4月～3月（10回分）
- 前期会員 4月～9月（5回分）
- 後期会員 10月～3月（5回分）

※ 団体定期会員数

	16年度末	17年度末	18年度末	19年度末	20年5月
団体数	29	34	36	29	29
加入口数	53	50	46	33	33

※ 賛助会員数

	18年度		19年度	
	個人・団体数	寄付金口数	個人・団体数	寄付金口数
賛助会員(個人)	16	17	16	25
賛助会員(団体)	23	43	24	41

※ その他会員数

単位：人

会 員 名	17年度末	18年度末	19年度末
メイト（一般）	1,080	1,204	1,268
シニア（65歳以上）	607	667	677
フレンドシップ（学生・障害者）	158	184	204
計	1,845	2,055	2,149

- (注) ●メイト …A席・B席・C席のチケットを定価の10%割引
 ●シニア …A席・B席・C席のチケットを定価の1,000円引き
 ●フレンドシップ…A席・B席・C席のチケットを定価の1,000円引き

⑥ 支出削減のための取組み

楽員給与の据え置き、事務局職員の地域手当の支給停止の継続など、人件費の抑制に努めるとともに、事務事業を精査し、各種経費の節減を図った。

⑦ その他の取組み

第120回、第121回定期演奏会会場において、能登地震被災者救援のための募金活動を行い、寄せられた募金を、日本赤十字社を通じ、被災地に寄附した。

(2) 府民芸能・芸術鑑賞会事業（半額鑑賞会）

芸能・芸術愛好家のすそ野の拡大を図るため、大阪府及び(社)日本演劇興行協会の協力を得て、優れた舞台公演のS席または1等席入場券を通常料金の半額で府民に提供した。

平成19年度結果（第91回～第96回）

実施劇場	応募席数	当選席数	募集回数
新歌舞伎座 大阪松竹座 京都南座 梅田芸術劇場 国立文楽劇場	(葉書 78,296 通) 142,965 席	83,829 席 (うち確定 60,120 席)	年 6 回

(3) 文化施設の管理運営事業

(1) オーケストラハウスの管理

大阪府からオーケストラハウスを賃借し、センチュリー交響楽団の練習場、財団の事務所及び音楽サロンとして適正に管理した。

(2) 服部緑地野外音楽堂の管理

服部緑地野外音楽堂は用途も幅広く、比較的低廉な使用料金のため、ジャズ、ロック、和太鼓など様々なジャンルで利用されている。この施設の管理を（財）大阪府公園協会から受託し、その適正な執行に努めた。

○平成19年度の利用状況—《開館日数305日》

- ・ 野外ステージ利用団体数 延べ 41 団体
- ・ リハーサル室利用団体数 延べ 451 団体

◀ 服部緑地野外音楽堂 概要 ▶

構造・規模	鉄筋コンクリート(大屋根鉄筋骨造) 地上2階			
延べ床面積	約1,487㎡(うち2階330㎡)			
ステージ面積	276㎡(最大間口28m)(最大奥行13m)(最大高さ13m)			
収容人員	2,700人 (内訳) 固定椅子席 1,700人(うちステージ後部席321人) 芝生席 1,000人			
付属施設	リハーサル室	85㎡		
	事務室	27㎡		
	控え室(兼会議用)	62㎡		
	道具置場(26㎡×2)	52㎡		
	楽屋	15㎡		
	ピアノ庫	20㎡		
	調整室	25㎡		
利用時間	午前	午前9時～正午	夜間	午後5時～午後9時
	午後	午後1時～午後5時	全日	午前9時～午後9時
休館日	毎週火曜日及び12月27日～1月5日			